

## 技術センターの現在の状況

技術統括 村上 義博

技術センター研修会は、平成 26 年度は霞キャンパスで、昨年同様半日の日程で行われました。限られた時間ではありますが効率的に報告・意見交換ができたと思っております。

基調講演は、医歯薬保健学研究院の里田先生に「模型を使った解剖学教育～耳小骨模型と嚥下模型を用いて～」についてお話しいただきました。先生ご自身で製作された模型を使ってご説明いただき、素人の私にも大変わかりやすい内容でした。単なる模型ではなく、実際の動きを再現できるように工夫されており、ものを作る上ではより深い部分を理解しているからこそ、このような模型が製作できるのであると感じました。里田先生ありがとうございました。また、口頭発表 4 題の技術発表が行われました。各部門から 1 名ずつ日頃の活動や工夫などの技術についてご報告くださいました。年を追うごとにプレゼンテーション能力が上がっていているように思います。報告された技術職員の皆様、ありがとうございました。

また、山本技術センター長から今後の人員計画についてのお話がありました。技術センターが発足して約 11 年が経過し、次の 10 年技術センターをどのような形に持って行くか人員構成を検討している重要な時期ですので、皆様のご理解をお願いいたします。

現在は、新たなシステム構築というより、システムの定着、検証を行っている段階です。現在の 4 部門の体制は大学のニーズに合った形に集約化が進んでいます。技術センターの役割は、広島大学において技術的な支援を行うことです。そのために各技術職員が持つ知識等を最大限に生かせる部署で業務を行っていただき（業務依頼・派遣システム）、資格取得、講習会への参加を行うことで日々進歩していく技術に対応しています（人材育成システム）。その能力を発揮しているかどうかをチェックして評価し問題点等があればそれを改善しています（個人評価システム）。

技術的なことも必要ですが、今後の広島大学のグローバル化に対応するため（実際、業務において留学生と関わる機会が増えていると思われませんが）、日本語以外の言語で意思の疎通が図れるようにならないといけない状況です。技術職員の皆様には学習プログラムを活用するなどして、語学力のアップに努めていただければと思います。

最後に、本号の発刊にご尽力くださいました学術支援グループ、報告集編集ワーキンググループの委員の皆様に厚く御礼申し上げます。